

文書館通信

21号

東御市文書館
令和5年
12月 発行



☎ 文書館直通 0268-67-3312
東御市教育委員会文化財係直通 0268-75-2717
✉ メールアドレス bunshokan@city.tomi.nagano.jp

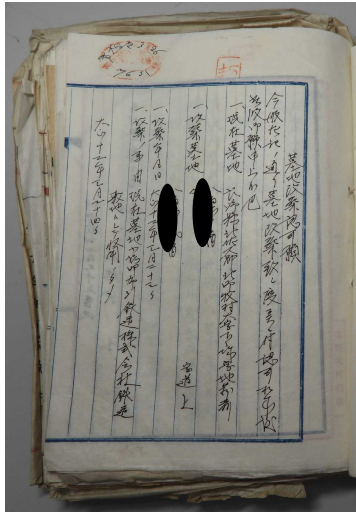
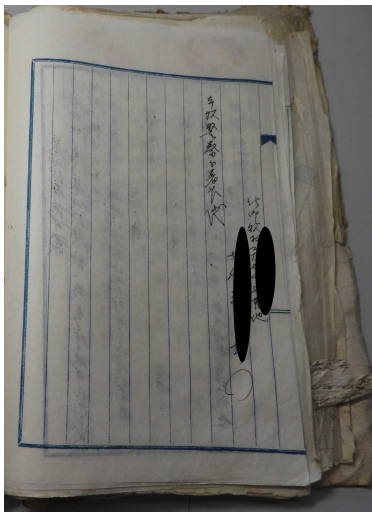
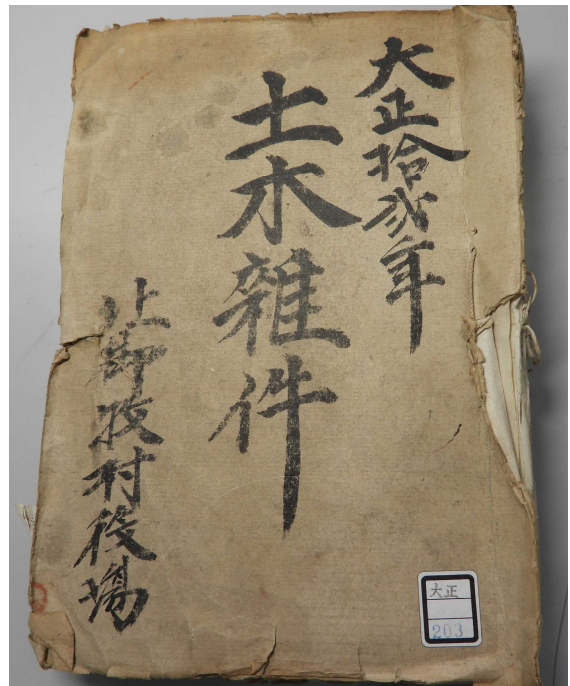
皆さんは、かつて北御牧を通っていた電車があったことをご存じでしょうか。今月は、当文書館が所蔵する、「布引鐵道（ぬのびきてつどう）」関連の資料をご紹介します。

ぬのびきてつどう 【布引鐵道】とは：略年表

大正8年(1919)7月23日に、平野五兵衛代表により、小諸一望月間「布引鐵道敷設免許」の申請が提出され、翌大正9年(1920)1月29日に認可を受けました。

単線で、ガスによる動力で、「布引自動鐵道」の名前で申請が出され、動力を蒸気に変えたことで、「布引鐵道」に社名を変更しています。発起人は、当時小諸商工会長をしていた平野氏ら15名で、小諸町(現小諸市)の商人たちが、商圈拡大と観光開発、川西地区(千曲川左岸地区)の発展を目指したものでした。

大正12年3月4日付の、路線経路にあたる墓地の改葬許可の書類が残っており、計画的に鐵道工事が進められていた北御牧村役場歴史的資料 資料No.大正203土木雑件 ことが、伺われます。写真の資料は、鐵道の計画路線上に墓地があり、その移転に関する文書です。



北御牧村役場歴史的資料 資料No.大正203土木雑件 墓地の改葬願

本牧警察署長様

今般、左記ノ通り墓地改葬致し度候ニ付、認可禁止被収、御願申上候也。

墓地改葬認可願

一、現在墓地 長野縣北佐久郡北御牧村大字下之城字地墓所

一、改葬墓地 (地番 個人情報のため略) 宇道上

一、改葬年月日 (地番 個人情報のため略) 大正十二年三月二十三日

一、改葬事由 現在墓地小諸町布引鐵道株式会社鐵道敷地トシテ収用ノタメ

大正十二年三月二十四日

北御牧村 (地番略)

(墓地所有者名)

大正9年10月30日に、平野五兵衛を代表に、小諸町(現小諸市)に本社を置き、100万円(企業物価指数に拠り計算すると、現在の4億2400万円)の資本金で「布引鐵道株式会社」を設立しました。

大正11年(1922)5月13日に、全線の工事施工の認可がされ、8月には工事に着工しています。

大正11年12月14日に、動力を蒸気から電気に変更しました。

大正12(1923)年5月27日、動力を電気にしたことで、「布引電氣鐵道」に社名を変更しました。

大正15年(1926)12月1日に、小諸一島川原間の7.42キロメートルの区間にわたり、営業を開始しました。

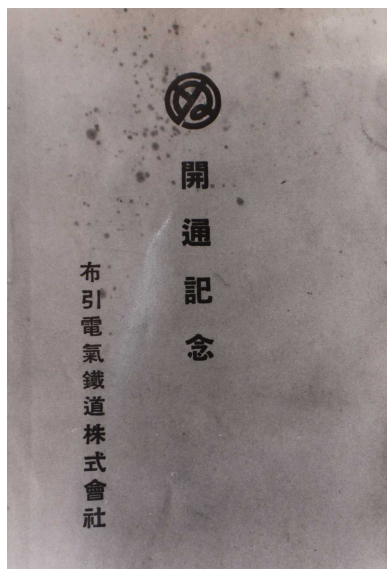


写真
『北御牧村史』
作成時資料
(東御市文書館所蔵)

布引観音(釈尊寺)祭

布引鐵道の集客のために始めた布引観音祭の5月8日は、布引鐵道の乗客がとても多く、賑わったそうです。(写真は昭和後期の様子)



しかし、2か月後に資金難により、工事は中止してしまいます。

昭和6年(1931)4月から、望月までの軌道延長工事に着手しました。

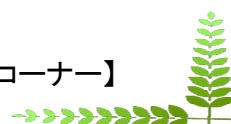
昭和7年(1932)5月1日、送電停止により一時運休になりましたが、2ヶ月後の7月12日に走行を再開しました。

昭和9年(1934)7月10日には、小諸一島河原間の送電停止により、運休しましたが、そのまま許可なく営業停止になり、昭和11年(1936)10月28日に、免許を取り消され廃止となりました。

こうして布引鐵道にとっての激動の17年間に、幕を閉じたのでした。



【文書館展示ご案内コーナー】



東御市文書館所蔵の中で、一番古い植物標本写真を展示しています。

明治37年、今から119年前に小山とよ子氏により採取され、作成された植物標本です。



文書館資料No.123 りんほうぎく
採取地：浦倉山(群馬県と長野県の県境)



文書館資料No.120 レンリンソウ
採取地：浦倉山



文書館資料No.115 まんねんすぎ
採取地：牙山の囃子鹿口

※本資料は北御牧郷土資料館より移管された植物標本です。